

I C T実践シート 中学部④

<p>観点</p>	<p>コミュニケーション支援 ・ 活動支援 ・ 学習支援</p>
<p>目的・実態</p>	<p>・ 中学部2学年（Ⅱ類型）生徒A ・ ワークシートに自分の考えを記入する時に、1文字ずつ口頭で確認したり教師が見本として記入した物を見せて確認したりする必要がある。教師が付かなければならない状況になっていたため、できる限り1人で取り組む時間を増やすことを目標とし、音声認識アプリの活用に取り組んでいる。</p>
<p>方法</p>	<p>・ 11月から実践している。 ・ 進路体験学習の反省記入、生活単元学習での英語翻訳、振り返りシートの記入の時に活用している。 ・ 使用アプリ「UD トーク」</p>
<p>成果（有効だった点／児童生徒の変容等）</p>	<p>・ 教室が静かな時には、アプリが生徒Aの音声を正しく聞き取り、画面に表示されていた。 ・ 文字を拡大することができるため、生徒Aが自分で見ながらワークシートへ記入することができていた。 ・ 漢字には読み仮名がついていることに加え、小学生向けの漢字設定ができ、生徒Aの実態に合わせて表示することができた。生徒Aは小学1年生の漢字を主に学習しているが、このアプリで小学2年生程度の漢字を表示すると、積極的に書く場面も見られた。 ・ 発音が正しく認識されなくても、入力で編集することができるため、正しく直して提示することができる。</p>
<p>課題・改善案</p>	<p>・ 複数の人の声が聞こえる場面では、他の人の声が入ってしまうことがある。 ・ 話す直前にボタンを押し、話し終わったらすぐに止めるということが難しい。 ・ 生徒Aは発音が明瞭であるため効果的だった。 ・ 見ながら書くという動作が難しく、字が崩れてしまう。</p>

